わき 議会だより

第145号 2026. 11. 1



令和７年度　決算審議…… p６・７
令和７年度の財政状況…… p８
町づくり懇談会参加者の意見…． p12

「手をつなぐ育成会」の皆さんでいちじく収穫

和木町議会広報広聴常任委員会　E-mail：gikai@town.waki.lg.jp

９月定例会

国の物価高騰対応への臨時交付金 297万円LED化推進

住民の安全・安心な環境づくりとして 集会所5か所・和木駅の照明をLED化

９月定例会は９月７日から18日までの12日間の会期で開かれました。議会は報告５件と同意１件、諮問１件、令和７年度和木町一般会計・特別会計歳入歳出決算の認定・公営企業会計決算の認定、令和８年度補正予算では基金を活用し公共施設の照明をＬＥＤ化など、議案11件を審議し原案の通り可決しました。

一般質問には、６名の議員が登壇し、行政全般にわたる議論を展開して町政を問いました。

補正予算の専決処分

＊集会所、和木駅の照明器具ＬＥＤ化工事３７６万円

問 物価高騰対応重点地方創生臨時交付金をＬＥＤ化工事に充てた理由と工事場所は。（上田議員）

答 交付金額が約３００万円と少額のため、町民への還元を検討した結果、駅のコミュニティプラザ、駐輪場、関ヶ浜１丁目第１及び第２集会所と瀬田４丁目集会所、和木２丁目第３集会所、和木５丁目集会所にあてた。

補正予算

一般会計

＊２億２７５万円の増額補正

主なものは、財政調整基金積立額１億９５４万円、減債基金積立金３１６６万円、公共施設等総合管理基金積立金３１６６万円など。

問 蜂ヶ峯森林整備委託料の詳細と補助率は。（三分一議員）

答 キャンプ場上部の両端と栗園周辺の雑木の伐採で補助率は、８割程度。

問 下水道管路の工事は町の負担となっているが、今後、国、県へ補助申請の検討は。（上田議員）

答 大口径の点検等進めていく中で補助対象となるように進めていく。

＊和木小中学校ＧＩＧＡスクール用端末一式購入契約　３７１７万円

問 更新となる理由は。（灰岡議員）

答 開始から６年を経過し更新時期となったため。

問 随意契約となっている理由は。（三分一議員）

答 同じ端末を調達予定の自治体が集まって審査会を開き、業者を決定した。数量については、各市町においての契約となっている。

問 パソコンの使用による子どもたちの視力低下と古い端末の処分の方法は。（嘉屋議員）

答 学校内での使用については、十分に気をつけていく。学校だよりなどいろいろな場面を通じて保護者、子どもたちに話をしていきたい。

古い端末の処分については、今後考えていきたい。



教育委員会委員任命

中村博美氏の再任を同意しました。

人権擁護委員候補者の諮問

山本和彦氏の諮問を同意しました。

■臨時議会

和木町文化会館舞台照明改修工事　１億87万円

舞台照明器具の老朽化に伴い、舞台用照明設備をＬＥＤ照明設備に更新

問 指名入札状況と工期および照明器具更新は何箇所やるのか。（嘉屋議員）

答 10社指名で３社参加。工期は８月から来年３月まで、照明器具の更新は、舞台上のサスペンションライト72台、客席の両側サイドにあるフローリングライトの上手９台、下手９台。客席の上部、シーリングライト20台である。

問 改修工事の財源の交付金３５００万円ほど余るが、使い道はどうなっているか。（明本議員）

答 現時点で何に使えるか決まっていないが、今後他の交付金事業と精査して基金などに積み立てたい。

問 今回の工事によって、舞台照明装置のすべてがＬＥＤ化になるのか。（津島議員）

答 舞台上と客席側の舞台照明用電球がすべてＬＥＤ化になる。

蜂ヶ峯総合公園の現状を知る


観覧車

公園の歴史

- 開園から３９年が過ぎて、令和３年に Bee＋エリアがオープンしており、蜂ヶ峯総合公園は和木町で唯一の観光施設となっている。
  公園の管理は、蜂ヶ峯総合公園管理協会が賑わい創出や施設の運営をおこなっている。
- １９７９年（昭和５４年）から約８年間の整備期間を経て開園。自然に囲まれた広い敷地に、テニスコートやキャンプ場、広場などが整備され、和木町を代表するシンボル施設として誕生。
- １９９０年（平成２年）　バラ園オープン
- １９９１年（平成３年）　ミニ SL 運用開始
- １９９２年（平成４年）　大型ローラーすべり台運用開始


ふわふわドーム



冒険の森

- その後、観覧車や恐竜の森、大型複合遊具などが設置され、県内屈指のファミリー向け総合公園に成長。
- ２０２１年（令和３年）Bee＋エリアオープン。主な施設は交流棟（観光インフォメーション・カフェ等）こども広場（県内最大級のふわふわドーム等の大型遊具）レストラン棟（イタリアンレストラン「ゾーナイタリア蜂ヶ峯」等）光の広場（年間を通じて楽しめるイルミネーション）

公園全体利用者数及び売上

（単位：人）

公園利用者数		令和６年度	令和７年度	前年度比較
公園管理協会	有料施設利用者	87,022	92,659	5,637
Bee＋	カフェ利用者	10,067	9,180	−887
	売店等利用者	1,249	1,364	115
	ふわふわドーム利用者	12,129	10,142	−1,987
	Bee＋施設利用者	2,589	3,001	412
	イベント集客	9,892	7,674	−2,218

（単位：円）

公園売上		令和６年度	令和７年度	前年度比較
公園管理協会	有料施設利用料	15,816,950	17,597,650	1,780,700
Bee＋	カフェ売上	8,921,855	9,146,815	224,960
	売店等売上	1,054,910	1,207,967	153,057
	ふわふわドーム使用料	3,470,600	2,926,600	−544,000
	Bee＋施設使用料	129,450	275,450	146,000
	自動販売機手数料	814,183	638,385	−175,798

有料施設利用者数及び使用料

（単位：人）

施設名	年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	前年度との差異
	グラウンド	8,760	7,947	8,075	8,769	694
	テニスコート	1,953	1,805	1,416	1,292	−124
	弓道場	2,239	2,310	2,291	2,637	346
	冒険の森	9,021	6,954	6,255	5,671	−584
	キャンプ場	3,103	3,993	3,253	2,922	−331
	ミニSL	29,676	25,951	23,568	22,744	−824
	ローラーすべり台	20,665	15,927	13,768	12,680	−1,088
	観覧車	16,392	13,985	2,305	11,924	9,619
	バッテリーカー	34,324	30,326	25,127	23,208	−1,919
	イベントその他	1,198	1,759	964	812	−152
	合計	127,331	110,957	87,022	92,659	5,637

（単位：円）

施設名	年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	前年度との差異
	グラウンド	119,750	179,260	118,900	143,700	24,800
	テニスコート	407,400	361,800	274,600	255,600	−19,000
	弓道場	1,900	5,300	5,100	9,000	3,900
	冒険の森	2,604,970	1,984,180	1,742,410	1,558,100	−184,310
	キャンプ場	421,100	457,100	353,000	366,900	13,900
	ミニSL	8,059,620	7,110,780	6,388,250	6,103,960	−284,290
	ローラーすべり台	5,742,940	4,467,000	3,799,960	3,491,470	−308,490
	観覧車	4,451,570	3,831,890	622,030	3,348,120	2,726,090
	バッテリーカー	3,432,400	3,032,600	2,512,700	2,320,800	−191,900
	出店	0	17,100	0	0	0
	合計	25,241,650	21,447,010	15,816,950	17,597,650	1,780,700

表から読み取れるコメント

１．公園全体の利用状況（利用者数・売上）

全体として利用者数は減少し、売上は施設や売上項目（店舗売上や一部遊具など）によって増減の状況が読み取れる。

２．「有料施設利用者数及び使用料」の課題や問題点

・令和７年度は　92,659人（+5,637人）と前年度よりやや持ち直したものの、令和４～５年度の水準（11万～12万人台）には及んでおらず、集客力が低下している。

・公園のメインコンテンツである大型遊具や乗り物の利用者数が右肩下がりとなっており、ファミリー層や子ども連れのリピート率低下や老朽化などの影響が懸念される。

・遊具エリアだけでなく、スポーツ施設やアクティビティエリアの利用も低下しており、施設全体の稼働率・魅力低下が課題となっている。

審議事項

※子ども達の居場所づくりは
※熊本地震への災害派遣

教育

問　夏休みの美術館の利用状況について。（中村委員）

答　学習スペースの利用者が、8日間で小学生7名、中学生11名。子ども向けイベントの来館者は、3506名で契約額が220万円であった。

問　夏休みに町が実施した事業で、美術館以外の利用状況と今後の検討は。（上田委員）

答　文化会館で開催されたスマイルサーカス団によるイベントは来場者330名、中学校多目的室で開催したファミリーコンサートでは利用者160名であった。

問　国の政策の高校無償化による和木町への影響は。（三分一委員）

答　影響としては、家計支援と進学機会への拡大がメリットとなる。公立私立の競争激化や授業料以外の負担が残る事が課題となるが、中学校や保護者から影響に係る情報はない。

問　空想の街「ワッキタウンにようこそ」は無料の児童向け開催事業だが、和木町ホームページに掲載されていなかった。今後の検討は。（明本委員）

答　来年度以降は、町広報紙やホームページ、新聞、地域情報紙への掲載等、メディアを通じた宣伝を行っていきたい。



ワッキタウンにようこそ

生活・暮らし

問　老朽化空き家の把握と、予防対策は。（森脇委員）

答　「管理不全空き家」や「特定空き家」として指定した空き家は無い。町民から相談があれば、担当課から家の所有者へ文書等により、随時改善の依頼を行っている。

問　潮回し水路の清掃の時期は。（嘉屋委員）

答　昨年までは8月、3月に実施をしていたが、地元からの要望により、本年度からは9月、2月に変更した。


清掃が必要な潮回し水路

問　地域プロジェクトマネージャーが退任したが、再公募の検討は。（三分一委員）

答　現時点において、地域プロジェクトマネージャーの再公募は検討していない。

問　無料送迎サービス「わきくる」の今後の展望は。（嘉屋委員）

答　赤い羽根共同募金の助成で令和9年3月31日まで社会福祉協議会が実施する事業であり、町の方針や展望はない。町としても取り組みが途切れることなく継続される事を期待している。

建設

問　蜂ヶ峯総合公園の施設老朽化と利活用は。（森脇委員）

答　今年度は、フィールドアスレチックの修繕とミニSL客車の車軸交換工事を実施。ソフト事業を中心として、公園管理協会、地域振興協会、にぎわい創造事業実行委員会と連携、協議しながら、子育て世代を中心とした交流人口の拡大に努めていく。


客車車軸が交換されるミニSL

問　給食センター建設の進捗状況は。（明本委員）

答　7月9日付けで契約を締結し、基本的な打ち合わせを進めている。基本設計業務期間は1月末までで、一定の内容がまとまった時点で公表する。

問　給食センターにおいて、職場環境を改善するための設備投資の内容と、成果は。（三分一委員）

答　昨年度まで3台のスポットクーラーを稼働していたが、今年度は内1台を大出力のクーラーに更新した。根本的な職場環境問題解消は困難であるが、できる範囲での環境改善効果を図っている。

問　給食センターの配食数の推移は。（三分一委員）

答　配食数の予測は、和木町の人口ビジョンにおける将来人口の推計を基に算出が10年間で配食数も減少していく。

委員会NOW（ナウ）

常任委員会

保健・福祉

問 **保健相談センターでは、思春期の子どもを持つ保護者の相談にどう応じているのか。**（灰岡委員）

答 相談には保健師が個別に対応する。最近は乳幼児期から少しずつ学び始めていくことで、自分の身体は大切なもの、自分は価値のある存在と理解し、自尊感情が育てられると考えられており、10月8日に「乳幼児から伝えたい性のはなし」と題して、ミニ講話を企画している。

災害派遣

問 **7月28日に発生した令和8年熊本地震の被災支援の内容は。**（津島委員）

答 熊本県八代市の「救護施設　千草寮」と「デイサービス　ときのいろどり」に8月12日から25日までの14日間、給水車1台と町職員延べ10名を派遣。活動内容は、貯水タンクへの給水を延べ26回、合計41トンの給水を実施。



支援地で大活躍の給水車

問 **熊本地震への職員災害派遣の勤務手当の内容について。**（兼本委員）

答 平時と同じく勤務に要した時間に応じており、超過勤務は手当を支給している。

問 **和木町職員旅費支給条例、災害派遣手当の支給について、条例の改定が必要では。**（兼本委員）

答 条例に基づき、日当と宿泊費を適正に支給している。災害派遣手当等の支給に関する条例は、制定に向け検討していきたい。

問 **熊本災害支援での反省点や課題点は。**（明本委員）

答 災害現場では想定外の事象も発生するため、作業の安全性を向上するために、平時から操作方法や車両管理などの研修を行う必要性を感じている。随時の情報提供が必要で、正確な情報発信の重要性を感じ、窓口を一元化し、住民の方、活動する団体へ情報提供する体制づくりが必要と考えている。

防災

問 **総合コミュニティセンター利用者に対し、火災等の避難訓練が必要ではないか。また、避難所であるのにWi-Fiが設置されていないが、状況は。**（中村委員）

答 近年実施した訓練では、利用者に対して、事前通告なしの避難訓練は行っていない。（総合訓練1回、部分訓練1回は実施）

利用団体から避難訓練の要望があれば、事前協議の上で実施可能。Wi-Fiの設置は、業者を選択中で今年度中に設置予定。

問 **災害時の個別避難計画に基づく訓練が必要ではないか。**（上田委員）

答 避難計画の策定は、自治会や民生委員、支援者となる地域の方々の協力が不可欠であり、町だけでは策定できない。必要性を周知し、計画策定の推進と訓練の実施に努めたい。



津波を想定して避難訓練

交通

問 **県道1号線岩国大竹線、関々バイパス上り道路の倒木について。**（灰岡委員）

答 住民からの通報後、山口県岩国土木建築事務所に通報している。現地を確認し、緊急性のある倒木はないと判断している。要望があれば県に伝達する。

選挙

問 **選挙において電子投票の導入を検討できないか。**（兼本委員）

答 これから加速する行政のデジタル化に対応するため、電子投票について調査検討をしていく。

歳出46億2873万円

1億4270万円を上回ったため、41億874万円となる。
94％から上昇し、厳しい財政状況が続く。

Q 自治会連合会補助金の減額理由と自治会連合会解散の状況について。（上田議員）

A 新型コロナウイルス感染症後に自治会の活動が減少したことにより活動実績に応じた補助金額となったために減少した。自治会の存続は町にとって重要であり、継続して自治会の活動を支援していく。

Q テニスコート工事費用の基金活用について（上田議員）

の状況は。

A 1億円程度の工事費を予定しており、令和5年度から積立をしている。令和8年度末で9600万円程度積立予定で、足りない部分は財政調整基金を活用することになる。

Q 防犯カメラの今後の設置計画は考えているのか。（上田議員）

A 現状で増設は考えていない。現在20カ所27台設置している。

Q 家庭用防犯カメラの普及率と今後の補助金継続について。（森脇議員）

A 普及率は対象が定めにくく調査していない。新築件数も増えており継続を検討する。

Q やまぐち自治体クラウド違約金の内訳は。（明本議員）

A 10年間情報システムとして使用したが、国のガバメント実務により解除しなければならなくなり、違約金が発生した。国からの支援補助金で支払う。

Q あいあいバスの車両も購入して20年になるが、今後の運営計画は。（森脇議員）

A バスの路線の見直しも含め、購入するバスについても今後検討していく。

Q 住宅建設奨励事業は何件分で人口増加に役立っているか。（明本議員）

A 51件分であり、人口増加に直接的に関与していないが、住宅建設に貢献しており、新築住宅は増えており一定の効果を得ている。

Q 妊産婦タクシー事業での利用状況は。（森脇議員）



妊産婦タクシー券

A 94件の利用があった。病院の通院や買い物等など多岐に利用されている。

Q 敬老金支給事業の今後、高齢化が進み財政負担になるが継続するのか。（上田議員）

A 962名に支給した。可能な限り継続を考えているが、検討も考慮している。

Q こども家庭センター事業の内容と実績について。（森脇議員）



相談支援を行うこども家庭センター

A 正規職員の保健師や専門知識を有する支援員を配置し、妊産婦、子育て世帯、子どもを対象に相談支援を行っている。令和7年度の相談件数は妊娠期から子育て相談、発達支援、就園・就学、児童虐待、不登校、ひきこもり等の相談が合計1025件あった。その他にも個別相談や妊産婦サロン、ミニ講話などを実施しており町民の各悩み、相談に役立っている。

Q 検診委託料の内訳とがんの早期発見の効果は。（明本議員）

A 毎年6月に保健相談センターにて集団で実施する総合検診と、医療機関委託の個別で実施する乳がん検診がある。がんの早期発見の成果としては、令和3年度から令和7年度までの5年間で、がん検診を受診した者の内で合計6人が早期がんで発見された。がんの早期発見の成果を確認している。

Q 和木町斎場の利用状況と今後の運営計画、使用料について。（上田議員）

A 年間に平均60件の利用がある。使用料金については町民が無料で町外利用については3万円であり現状維持を考えている。

Q 備品購入費の内訳について。（明本議員）

A 保健相談センターへのAED1台更新、災

決算審議

令和７年度一般会計

歳入48億6933万円

地方債残高44億1247万円は償還額４億4642万円が借入額
経常収支比率は（政策的余裕を図る）100.3％と令和６年度

害用具の購入（簡易ベッド、テント、簡易昇降機、キャタピラ台車など）



ポータブルAED

Q 国際交流事業の内訳と問題点と今後の対応は。（森脇議員）（三分一議員）

A ニュージーランド海外派遣事業は中高生を対象として、７月28日から８月12日の16日間で、ニュージーランドオークランドに中学生10名、高校生２名の12名が参加した。

イングリッシュキャンプは、募集したが、参加者はいなかった。

問題点としては、海外渡航費用の高騰化と参加者の減少が挙げられる。

未来を担う子どもたちに、異文化に触れ、国際感覚を養ってもらうための有意義な事業と認識しており、継続していきたい。

Q 文化会館の空調設備改修工事の内訳とホールの扉の風きり音改修予定は。（明本議員）

A 文化会館屋上の冷却塔と冷却水ポンプの交換改修工事。ホールの扉は原因を調査する予定。

Q 文化会館イベント事業の事業内容と成果は。（灰岡議員）（森脇議員）

A イベント件数は１件で、アンディ先生のマジックショー&マジック教室を７月29日に開催した。各種マジックとステージでの体験マジック、全員参加型のマジックなどで、約１００名の来館者があり、好評を得た。


人気のマジックショー

Q 美術館ＬＥＤ化工事の内容と公共施設のＬＥＤ化工事の進捗状況は。（上田議員）

A 美術館の展示スペースやエントランスなど全館の蛍光灯をＬＥＤ化した。

他の施設では、わきっこクラブや体育センターもＬＥＤ化が完了した。

文化会館は、客席を除きＬＥＤ化が完了している。町財政を見ながら公共施設のＬＥＤ化を進めていく。

Q 町内の介護状況と介護事業の基金の活用について。（上田議員）

A 町の高齢化率は令和７年で30％であり、介護サービスの利用は相談に応じて対応しており苦情は生じていない。基金は介護保険の給付費を３年ごとに見直して保険料を抑えるのに使っていく。

歳入

Q 町税の収入未済額の内訳と不納欠損額の内訳は。（明本議員）

A 個人町民税滞納者が62人、６４５万３千円、法人町民税滞納が１件、13万７千円、固定資産税滞納者が30人、１６６万５千円、軽自動車税滞納者13人、12万２千円となっている。

不納欠損額は、個人町民税２人18万９千円、固定資産税１人４千円、軽自動車税１人１万２千円となっており、理由としては、和木町から転出し、所在不明のため。

総括質問　上田議員

Q 財政状況を検討すべき状況での敬老金、敬老会補助金など今後の考えは。

A 現状では継続予定だが、今後財政状況が悪化した場合は、検討する必要がある。

Q 高齢者福祉タクシー事業の対象の見直しについての検討は。

A 利用者の現状を確認して、制度の見直しを図りたい。

Q こどもの日常的な居場所づくりについての検討は。

A 今ある公共施設を活用して子どもの居場所づくりを設けていきたい。

令和７年度の財政状況　一般会計の歳入歳出決算金額

貯金　合計　２８億６７２８万円

〈主な基金〉

単位：千円

基金の名称	基金の概要・目的	決算時	前年度比較
財政調整基金	災害時や緊急時の他、お金の過不足にも対応する貯金	1,425,667	▲　75,877
減債基金	将来の借金を返すために計画的に積み立てておくもの	158,499	▲　5,894
福祉基金	地域における福祉活動の促進、快適な生活環境の形成を図るためのもの	119,559	0
すこやか安心基金	妊娠・乳幼児期から老齢期まで、安心して健やかに暮らせるまちづくりを実現するもの	355,588	98,985
地域振興事業助成基金	地域のコミュニティ及び芸術文化並びにスポーツの振興を図るもの	80,607	9,995
すくすくこども基金	特別な支援を必要とするこどもの健やかな成長と、学級の安定化を図るもの	159,500	31,383
公共施設等総合管理運営基金	公共施設の長寿命化事業や大規模な修繕、災害による被災施設の復旧等の財源で、健全な運営に資するため	183,370	21,676
国民健康保険財政調整基金	国保料金の調整	51,726	▲　10,236
介護給付費準備基金	介護給付費の調整	124,621	12,807

町債（借金）残高　４１億８７４万円
（前年比較　▲３億３７２万円）

町債返済　４億６９２１万円
（前年比較　▲２５０万円）

単位：千円

指標の名称	Ｒ３年度	Ｒ４年度	Ｒ５年度	Ｒ６年度	Ｒ７年度
実質単年度収支：（一般的には）赤字は貯金を切り崩している状態であるため、継続すると財政が危険水域になる可能性が高まる。	245,841	344,437	▲347,379	47,510	▲83,868
経常収支比率：臨時的ではなく、毎年の経常的な経費の割合。政策的経費への余裕の程度も示す。	89.9%	85.6%	106.2%	94.0%	100.3%

コメント

主な基金として、すこやか安心基金（年間約５千万円）は約７年分、地域振興事業助成基金（年間約１千万円）は約８年分、すくすくこども基金は（年間約２千７百万円）約５年分貯めている。また財政調整基金も１４億円あるが、今後の給食センター建設や上下水道管の改修、公共施設の補修などの費用を考えると、楽観視はできない。

実質単年度収支も、令和5年はマイナス、令和6年はややプラス、令和7年度に再度マイナスとなっている。併せて、１００％を超えると財政が硬直化すると言われている経常収支比率も、令和５年以降高止まりしており、令和5年と令和7年は１００％を超えている。

以上より、今後の財政運営は厳しくなっていくものと予測されるため、新規で費用のかかるハード面、ソフト面でのサービスを行う際には、議会として注視・監視していく必要がある。

Q 補聴器補助金はどのような人が使えるのか



なかむら みつこ
中村 充子 議員

A 町長 補聴器を利用しやすくする支援策として補聴器購入の補助金を10月1日から開始する

動画はこちら➡

質問 聞こえの悪い方の補聴器購入に対して補助金が出ることになっている。どのように補助金が決定されるのか。

町長 聴力低下は、コミュニケーションの困難さを招き、社会的な孤立感や生活の質の低下につながるだけでなく、認知症の発症リスクを高める可能性も指摘されている。

しかし、聴力を補助するための補聴器は比較的高価な医療機器でありながら、国民健康保険や社会保険、介護保険のいずれも対象外となっており、経済的な負担から購入をためらう場合もある。このような状況を踏まえ、和木町では、高齢者が利用しやすくするための支援策として、助成事業を開始した。

保健福祉課長 対象者は、和木町の住民基本台帳に登録されている満65歳以上で、両耳の聴力レベルが原則として30デシベル以上であり、かつ身体障害者手帳の交付を受けていない方である。さらに、指定医等（身体障害者福祉法第15条第4項に規定する医師又は一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の補聴器相談医）により、補聴器使用が必要であると判断された方が対象となる。また、過去5年間本事業による助成を受けていないこと、町税等の滞納をしていないことも要件となる。



補聴器補助の申請中

Q 学校給食センター新設をどう考えるか



はいおか ひろみ
灰岡 裕美 議員

A 町長 一刻も早く建設したい

動画はこちら➡

質問 人口が5千5百人余の本町にとって総事業費15億4千万円を投じて新たな給食センターを建設する計画を立てる際に、近隣自治体からの給食供給や既存施設の改修・延命等の方式を考えたか。

町長 関ヶ浜に給食センターを建設することは私の選挙公約であり強く訴えて来た。財政が厳しいことも認識をしている。他の方法として、岩国市や大竹市の提供を受けることについては確認をしたが、こども園・小学校・中学校すべての配食数を賄えないとのことである。



関ヶ浜の給食センター建設予定地

質問 昨今の出生数の減少を考えると令和12年の2学期に供用開始予定の900食を想定している根拠は。

教育委員会事務局長 町の総合計画に基づく人口ビジョンにより数値を推計している。

質問 財源は米空母艦載機部隊配備特別交付金を活用すると聞いている。年間2億5千万円の交付金を3年間積立て、最終年度令和12年の積立額は未定で残りを起債（借金）財政調整基金（貯金）で賄うとの説明を受けた。昨今の災害、施設の老朽化等による財源の不安をどう考えるか。

町長 今までの答弁と変更はない。

その他の質問
○乳幼児の保護者と子どもが集える場所づくりを

Q 和木町内での除草剤散布は



かや とみひろ
嘉屋 富公 議員

動画はこちら➡

A 都市建設課長　公共施設等で使用している

質問　**グリホサート系除草剤散布の年間使用量及び頻度は。**

課長　役場・蜂ヶ峯総合公園・町営住宅・美術館等で使用している。使用薬剤は農林水産省の登録があるものを、年に1～3回、使用量は把握していない。

質問　**町は、最新の科学的知見を踏まえた独自の危険性評価を行っているのか。**

住民サービス課長　町としては、国の評価とは別に、独自の危険性評価はしていない。国や関係機関による最新の科学的知見や評価など、情報収集を行いその動向を注視する。

質問　**和木町でも、日本を先駆けた研究等を行いながら町民の安心安全を考えて頂けないか。**

課長　子どもたちの安全を確保することは、大変重要だと認識しており、場所や時期、方法等十分配慮し、適切な使用に努める。

＊盆踊りを通じて活気ある町づくり

質問　**伝統文化を継承するうえでも中央での盆踊り大会開催を。**

企画総務課長　盆踊りは、年齢や性別等に関係なく世代を超えた地域の素晴らしい行事と考える。地域主体で実行委員会が立ち上がり具体的な要望があれば、できるだけ応援する。



にぎわっている盆踊り大会

Q 給食センターを多目的な施設として建設できないか



うえだ じょうじ
上田 丈二 議員

動画はこちら➡

A 町長　コストや早期の建設を考え必要機能で建設する

＊給食センター建設について

質問　**町民の方が利用できる施設や災害時の倉庫など、多目的な利用施設として給食センターを建設計画できないか。**

町長　多目的な複合施設として建設すると高度な衛生基準に基づいた徹底したセキュリティと衛生対策が不可欠となりコストが大幅に増大することが予想される。

必要最低限の機能として、建設費用を抑え、未来を担う子どもたちに安全・安心な給食を提供するため、早期の建設をめざしたい。

＊あいあいバスとJR線との接続について

質問　**JR線との接続で調整が困難な理由は。**

企画総務課長　限られた台数で運行し、各地域へ1時間に1便という頻度で運行しており、列車の上りと下りの到着、バスの到着、出発のタイミングを考慮しなければならず、このすべてのタイミングにおいて最適な接続の設定が困難である。

質問　**午前中のある程度の時間だけでも余裕を持った接続の調整は出来ないか。**

町長　町民の皆様の声も伺っている。できる限りのダイヤ改正を今後もしていきたい。



余裕時間のある接続を

Q 複合災害時の避難所の確保は



もりわき あけみ
森脇 明美 議員

動画はこちら➡

A 企画総務課長 緊急時の一時的避難では多くの避難者の収容が可能

質問 **南海トラフ巨大地震と風水害等の、複合災害時避難所の安全確保と運営マニュアルの現状を問う。**

課長 避難所を確保。高い強度と耐震性を有する場所として、総合コミュニティセンター、中学校、こども園、小学校、三井化学体育館を主要指定避難所としている。

小中学校、こども園は3割を共有部分とし、残りスペースで1335名の収容、滞在が可能。緊急時の一時的避難では更に多くの避難者の収容が可能と考える。運営マニュアルの整備は、令和3年に避難所運営の考え方及び、感染症対策下の避難所の開設・運営計画を作成し、令和5年に検討を行い避難所開設運営マニュアルを作成配布している。



町民参加の防災訓練

質問 **緊急時の情報の取得手段と住民の備蓄品の備えは。**

課長 防災行政無線、音声アプリ、戸受信機、防災メール、テレビ等を通じたLアラート、エリアメール等の情報伝達手段により住民に知らせる。

どの災害でも備蓄等には対応しているが、町民の方には災害の備えとして、3日分程度の水や食料等の備蓄をして頂きたい。

Q 2014年の災害に対する問題解決は



さんぶいち じゅん
三分一 淳 議員

動画はこちら➡

A 企画総務課長 ハード面では難しいが、ソフト面で施策の拡大・推進を図っている

質問 **2014年「山口県岩国市と和木町を襲った豪雨災害」が、情報収集・伝達等の多面でうまくいってなかったとお聞きしている。改定された地域防災計画書では問題解決されているか。**

課長 ハード対策として、全てを整備することは困難である。ソフト対策として令和8年5月に和木町地域防災計画を改定し、これに併せて「和木町要配慮者対策・支援計画」を作成、更なる施策の拡大・推進を図って体制を整備してきている。

質問 **人力が不足する際の対応は。**

課長 「和木町業務継続計画」より、通常業務に優先順位を付けて、災害応急対応業務に人員を割りふる。さらに不足する場合、他の自治体、関係機関、団体等の支援を受ける。



地域防災計画

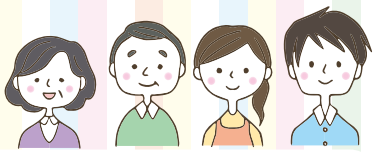
質問 **不足することが予測される電力について伺う。**

課長 非常用電源（72時間分）を設置している。全ての（業務等の）電力に耐えうるものではないため、その後は関係機関、電力事業者に応援を求めるものとしている。

その他の質問

○和木町の歴史認識について、地域猫の対策について

第15回 和木町議会「町づくり懇談会」



今回は、島根県町村議会議長会の清山英晴氏を招き、「議会の役割と議員の仕事」について丁寧で分かりやすい講演をいただき、その後、参加された住民の方との活発な質疑応答を行いました。住民の方からは、議員報酬や選挙、議会のあり方、ボランティアや自治会の継続など様々な課題が出され、議会も今後の検討課題としていきます。

当日のアンケートの回答の中から、いくつか要約してご紹介します。

【皆さまからの意見と要望】

- 自治会の統合が必要で、丁目ごとに組み替えると若い人も分かり易く、行政も対応しやすくなるのでは。
- 議員と自治会との懇談会を開催して町づくりに努めていただけないか。
- 議員さんは自分がやっていることをもっとアピールした方が良いのでは。
- 各議員さんの得意分野をオープンにしてそこをポイントに頑張ってもらうのはどうか。
- 人口減少対策として魅力ある町づくりに取り組んでほしい。
- 議員の活動報告や本気度を聞く機会が欲しい。
- 町民と議会が町政維持のための討論をする場が欲しい。



- 若い人達にも町の運営に携わってもらえるように考えねばと改めて思いました。

【皆さまからの感想】

- 議会を知る場が今回でしたので役に立ちました。もっと知っていこうと思います。
- 若い世代の参加、興味がうすいところがあるので、どうにかしていかなければと感じています。
- 今まで議会が遠いものでしたが、もう少し勉強し興味を持ちたいと思います。
- 身近な議員に要望を言うと予算がない、無理とすぐに言われます。言っても無理だと思います。
- 議員さんの活動を知る機会を増やしていきたい。

編集後記

広報部は、広報研修会に参加し、講師の提案・意見と共に、他の議会だよりを参考にしながら、より良くなるように改修・修正を検討しています。住民にとって親しみやすく分かりやすい表現の方法を知り、また時代の流行を理解しながら、できるだけ住民が手にとって読んでもらえるものを追究しています。和木町議会だよりにおいても、改善の余地があり、住民に見てもらえるものになるのではないかと考えます。

話は変わりますが、和木町の議会だよりで、住民の意向を聞くために、二次元コードでのアンケートを実施しました。最近のスマートフォンを使ったものですが、集まりにくい方法だったのではないかと思います。

この調査方法でも、「これが住民の意向です」と言えるくらい、いつも住民の注目と購読が集まる、議会だよりになったら良いなと願っています。

（三分一 淳）

発行責任者
議長 兼本信昌
広報広聴委員長
森脇明美
広報部
上田丈二　中村充子
明本光弘　三分一淳